

2005年4月18日

各 位

中外製薬、三井物産および実験動物中央研究所と 「株式会社 未来創薬研究所」を設立

中外製薬株式会社〔本社：東京都中央区／社長：永山 治〕（以下、中外製薬）は、革新的な新規医薬品・診断薬のシーズ探索を目的に、三井物産株式会社〔本社：東京都千代田区／社長：檜田 松瑩〕（以下、三井物産）および株式会社実験動物中央研究所〔本社：神奈川県川崎市／社長：野村 達次〕（以下、実中研）との共同出資により、「株式会社 未来創薬研究所」（以下、未来創薬研）を設立することをお知らせします。

なお、営業活動の開始は2005年4月22日を予定しています。

中外製薬と三井物産および実中研は2002年、シンガポールに3社合弁によるPharmaLogicals社を設立し、疾患解析と遺伝子解析など病態およびゲノム情報から効率よく抗体医薬品を生み出す新しいゲノム創薬の研究体制を構築し研究を進めてきました。

それらの成果を薬剤開発に迅速につなげるためには、ゲノム研究の先端的な知見に加え、薬剤分子設計戦略や病態生理学的な研究を融合させた総合的な研究体制構築の必要性が生じてきました。

そのひとつの方法としての未来創薬研は、東京大学先端科学技術研究センター（以下、東大先端研）駒場オープンラボラトリー内に研究拠点をもち、大学や研究機関が有する先端的な知見や情報に当社の有する薬剤開発技術を融合させることで、革新的な医薬品探索が可能となると考えています。

未来創薬研はPharmaLogicals社で培った病態プロテオミクス研究の成果を生かし、東大先端研あるいはその他の研究機関との有機的な共同研究を発展させ、具体的なシーズ探索ならびに創薬研究を実施していきます。

中外製薬は、未来創薬研を新たなゲノム創薬の研究拠点として位置づけるとともに、国立大学独立法人化後の新たな産学連携モデルとして、参加する事業体が新たな価値を見出せる有機的な研究ネットワーク構築を目指します。

中外製薬は、2002年10月より、ロシュ・グループの重要メンバーとしてグローバルな経営基盤を有する国内製薬トップ企業としての事業構築を進めています。今回の未来創薬研の設立により新薬シーズ探索力をさらに強化し、がんや生活習慣病といった疾患領域での抗体医薬品、あるいは低分子の分子標的薬の創製を図っていきます。

以上

【ご参考】

三井物産は、治療から診断・予防のウエートを高める医療へのパラダイムシフトが始まっている中で、癌領域における分子診断事業を将来のコア事業と位置付けており、シンガポールでの研究開発合弁会社の設立、米国でのバイオテクノロジー企業への投資、さらにはそれら投資先で開発される最新技術の導入など、分子診断技術の獲得を推進しています。従来の検査・診断では分からなかった癌の早期発見、転移・再発リスクなどの診断を日本およびアジアで事業化するという、新たなビジネスモデルの創造に取り組んでいます。

実中研は、1952年の設立以来50年の長きにわたり医学研究、バイオサイエンス研究に貢献できる疾患解析システムを開発しております。その成果としては、良質な実験動物の開発と生産システムの確立、実験動物の品質規格を監視する国際的な「モニタリングセンター」の設立、遺伝子導入などの先端技術を応用した「ヒト疾患モデル動物」の作出、そして、これらを用いた新しい *in vivo* 評価システム等があげられます。さらに、超免疫不全マウスを用いることで、従来の免疫不全マウスでは移植が成立しなかった、前立腺や肺などの難移植性癌の移植が可能となり、癌疾患研究の更なる進歩と、診断、新薬開発に大きく貢献する疾患モデル解析評価系との期待が高まっています。

「株式会社 未来創薬研究所」の概要

1. 新会社名 株式会社 未来創薬研究所
(英文表記 : Forerunner Pharma Research Co., Ltd.)
2. 本社所在地 東京都目黒区駒場 4 - 2 - 1 6
3. 資本金 1 億円
4. 出資比率 中外製薬 8 5 %、三井物産 1 4 %、実中研 1 %
5. 事業内容 治療薬・診断薬のための新たなターゲットの発見・検証
6. 代表者 山崎 達美 (中外製薬 取締役専務執行役員)
7. 設立日 2 0 0 5 年 4 月 1 4 日
8. 営業開始日 2 0 0 5 年 4 月 2 2 日 (予定)
9. 設立時要員 中外製薬からの出向社員 (1 0 名程度) を中心に構成する